

夜の静けさが包み込む中、
足音だけが響くその道を、私は歩いていた。

何も特別なことがない一日だったけれど、その平凡さがいい。

「どこに行こう。」そんな問いを自分に投げかける。

答えは簡単だった。「どこでもいい。」

どんな道でも、この足で踏みしめて歩いていける。
それだけで十分だ。

世界は広くて、まだ見たことのない場所がたくさんある。
それでも、今ここにいることが、少しだけ幸せだと感じた。